

没後40年 幻の画家

不染鉄

ふせん

Tetsu Fusen:

A Retrospective

— 40th Anniversary of

His Death

暮らしを

愛し、

世界を

描いた。

2017年

7月1日(土) ~ 8月27日(日)

開館時間: 10時 ~ 18時 (金曜日は20時まで開館 / 入館は閉館の30分前まで)

休館日: 月曜日 (7月17日は開館)、7月18日 (会期中一部展示替えあり)

入館料: 一般900(800)円 高校・大学生700(600)円 中学生以下無料

* () 内は20名以上の団体料金 * 障がい者手帳等持参の方は100円引き、その介添者1名は無料

主催: 東京ステーションギャラリー (公益財団法人東日本鉄道文化財団)、産経新聞社

協力: ヤマトロジスティクス

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



《山海國絵》 大正14(1925)年 木下美術館蔵

没後40年 幻の画家

不染鉄



不染鉄を、ご存じですか。

不染鉄「明治24(1891)年〜昭和51(1976)年」は、稀有な経歴の日本画家です。20代初め、日本芸術院研究員になるも、写生旅行に行った伊豆大島・式根島で、なぜか漁師同然の生活を送ります。しかし、3年が経つと、今度は京都市立絵画専門学校(現・京都市立芸術大学)に入学。特待生となり、在学中第一回帝展に入選、首席で卒業した後、度々帝展に入選を重ねますが、戦後は画壇を離れ、奈良で晩年まで飄々と作画を続けました。これまで美術館で開かれた回顧展は、21年前の唯一回だけ。その画業の多くは、謎に包まれてきました。

不染の趣味は、見えないはずのものも見通す俯瞰と接近の相まった独特な視点にあります。太平洋に群れ泳ぐ魚から雄大な富士山を越えて、雪降る日本の漁村まではるかに広がる本州を表した作品や、蓬萊山を思わせる切り立った孤島に、幾重にも波頭が打ち寄せ、波間に一艘の舟がたゆたう様を描いた作品は、不染の心象風景であり、秀逸な筆致で表現された世界が、見る人を画中へいざなうようです。また、老境に入り、自らの生い立ちや日々の暮らしの光景を描き、幼いころの思い出や母への思慕の情を書き添えた作品には、「い、人になりたい」と願った不染の無垢な思いが満ち溢れ、優しく語りかけてきます。

東京初の回顧展となる本展では、代表作や新たに発見された作品を中心に、絵はがき、焼物など約120点を展示し、日本画家としての足跡を、改めて検証するとともに、知られざる不染鉄作品の魅力を探ります。

Tetsu Fusen: A Retrospective — 40th Anniversary of His Death

1



4



3



2

■ギャラリートーク

(学芸員による展覧会解説)

日時: 7月14日(金)、7月28日(金) 14:00~(約30分)

3階展示室集合

参加無料(要別途入館料)

*混雑時には中止することがあります

■レンガ・タッチ&トーク

(煉瓦が特徴的な当館のたてもの解説)

日時: 7月21日(金)、8月4日(金) 14:00~(約30分)

1階エントランス集合

参加無料(要別途入館料)

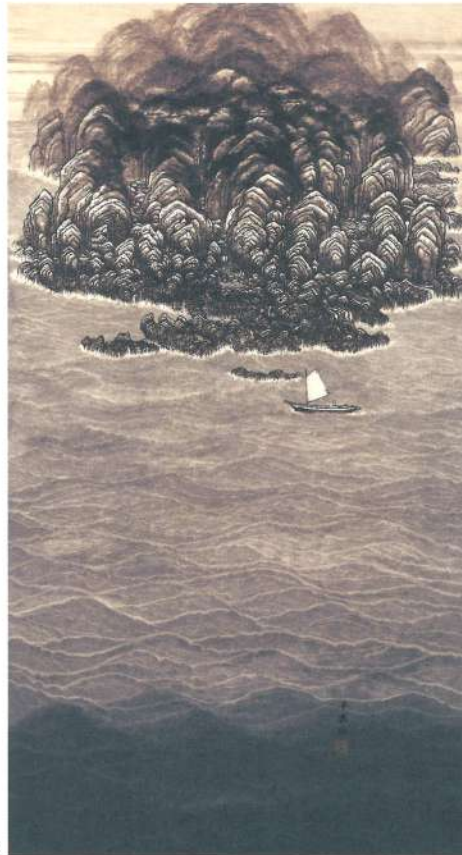
■前売券 入館料の200円引き。ローソチケット(Lコード=38777)、イープラス、CNプレイガイド、セブチケットにて、4月29日~6月30日販売。当館受付での販売は、4月29日~6月18日の開館日に限ります。

▲丸の内・皇居方面



▼八重洲方面

交通: JR東京駅丸の内北口改札前(東京駅丸の内駅舎内)



6



5

- 1 《日向葵文様飾皿》昭和32(1957)年 個人蔵
- 2 《古い自転車》昭和43(1968)年 個人蔵
- 3 《帆船》昭和44(1969)年頃 京都国立近代美術館蔵
- 4 《薬師寺東塔の園》昭和45(1970)年頃 個人蔵
- 5 《林間》大正8(1919)年頃 奈良県立美術館蔵
- 6 《南海之図》昭和30(1955)年頃 愛知県美術館蔵

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1 TEL. 03-3212-2485 <http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

次回展

マルク・シャガール 三次元の世界
2017年9月16日(土)~12月3日(日)